

幼(ち)児(じ)期(き)の保(ほ)育(いく)に つきて

日 向 志

小(せ)学(が)校(が)に 入(い)学(が)す 前(ま)の 子(こ)供(ども)の 教(き)育(いく)の 大(たい)切(せつ)な と いふ こと は、一(い)般(ぱん)の 人(ひと)の 口(く)癖(くせ)に いふ 所(ところ) で す が、時(とき)に よると 之(これ) と 全(ま)く 反(はん)對(たい)の 意(い)見(けん) を 持(も)つ 人(ひと) が 有(あ)り ます。其(ま)の 人(ひと) の 言(こと)ふ 所(ところ) は こ う な の で す。

入(い)学(が)前(ま)の 子(こ)供(ども)の 教(き)育(いく)に つきて は、勿(な)論(ろん)身(み)體(たい)の 養(やし)育(いく)法(ぽう) は 大(たい)切(せつ) で す が、精(せい)神(しん)の 方(ほう)の 教(き)育(いく)は、よ(よ)し、縦(た)令(れい)、多(た)少(せう)間(かん)違(ちが)つ た 所(ところ) が、後(あ)々(々)の 教(き)育(いく)で 取(と)り 返(か)へ し が 付(つ)く と 思(おも)ひ ます け れ ば、後(あ)々(々)ま だ の 運(うん)命(めい) を 危(あ)く す る と いふ 程(ほど) 大(たい)切(せつ) な 事(こと) と は 信(しん)じ ませ ぬ。

こ の 様(よう) な 思(し)想(さう) を 持(も)つ 人(ひと) は、ま(ま)だ、自(じ)身(しん)の 子(こ)供(ども) を 持(も)た ない 少(わ)か 少(ひ)う 人(ひと) の 中(なか) に、随(ま)分(ぶん) 多(た)い 事(こと) の 様(よう) に 思(おも)は れ ます が 然(しか) し、考(かん) へ て 見(み) る と、随(ま)分(ぶん) 大(たい)膽(たん) で あ っ て、然(しか) も 危(き)険(けん) な 考(かん) 考(かん) と 思(おも)ひ ます。

勿(な)論(ろん)、私(わ)は、こ の 考(かん) 考(かん) に も 多(た)少(せう) の 同(どう)意(い) を 表(ひ)し ます、即(すなは)ち 子(こ)供(ども) の 時(とき) に 身(み)體(たい) の 育(やし)養(よう)法(ぽう) を 誤(あや)ま っ て、夫(それ) が 爲(ため) に 身(み)體(たい) を 弱(よ)く す る と か、不(ふ)具(ぐ) に す る と か して は、こ れ は 生(し)涯(ぎや) 取(と)り 返(か) し が つ き ませ ぬ。そ して、精(せい)神(しん) の 方(ほう) の 教(き)育(いく) で す が、こ れ に つ き て は、其(その) 知(ち)識(しき) の 教(き)育(いく) は、私(わ)は、こ の 時(じ)代(だい) に 於(お)い て は、將(しょう) 來(らい) 取(と)り 返(か) し が つ かない と も 信(しん) じ ませ ぬ、否(い) な、或(あ)る 子(こ)供(ども) に よ つ て は、態(たい) と 入(い)学(が) の 時(じ)期(き) を 後(あ) れ さ す 必(ひつ) 要(よう) も 有(あ) る 位(くらい) で す 例(れい) 令(れい) ば、よ(よ)し 學(が) 齡(れい) に 達(た) ち 居(ま) っ て も、身(み)體(たい) や 精(せい) 神(しん) 上(じやう) の 發(は) 達(たつ) が 尋(じん) 常(じやう) で ない と す れ ば、寧(ね) じ 一(い) 年(ねん) か 二(に) 年(ねん) 後(あ) れ さ せ て 入(い) 学(が) さ せ る こと は、寧(ね) じ 必(ひつ) 要(よう) で あ っ て な ま な か、近(ちか) 慾(よく) に 過(す) ぎ て 早(はや) く 入(い) れ て 反(か) っ て 後(のち) に、身(み)體(たい) を 弱(よ) く し た り、不(ふ) 成(せい) 績(せき) で あ っ た り し ます の が、後(あ) れ さ せ た 爲(ため) に、將(しょう) 來(らい) に 於(お)い て、其(その) 後(あ) ち 後(のち) ら か せ た 丈(だけ) は 裕(ゆう) に 取(と) り 代(か) へ し が つ く 許(ば) か で なく、其(その) 爲(ため) に 頗(すこ) ぶ

る大成する様な事が間々あるのであります。

然し、精神教育の中でも、子供の道徳教育につき

ては、この考は頗る危険な誤まつた考といはねば

なりませぬ、子供の道徳的訓練即ち躾け方につき

ては、例令どれ程些細な事柄でも十分注意を要す

る事の必要は、決して身體の育養に劣りませぬ、

身體に傷がついたら、其痕が生涯残つて居る様に

この時分の良心に損所が出来たら、生涯消えます

まい。後々の教育の力は、とてもこれを打ち消す

程有力でありませぬ。勿論不良の感化に至ります

と、時々以前の教育を打破する位有力なもの

ありませんが、よい方の教育は中々夫程の勢力を有

しないものでありますよし其子供は後の教育と經

験とによつて、あゝ自分にはこういふ道徳の缺點

があると、自ら自分の良心の損所を自覺すること

は出来ませう、且つ其を自覺することに依つて、

これは、どうしても矯め直さねばとの考が起つて

自ら其損所を修め様と努力することもありませう

然し、然し損所は、依然として存して居ます、彼

は其自覺と努力に依つて、多くの場合には、其損

所を暴露しますまい、これ許りは確かに後の教育

の力です。けれども、子供の時に其萌芽に受けた

道徳上の損所は、例令ば、リユーマチス患者の如

く、又は若い時の打撲挫折が、一時治癒つて居て

も、寒とか土用とかには、時に痛みを覺える様に

時々偶然に、其人の行爲に顯はれて來るのは、吾

々の毎度見て知る所でありますせんか、高等なる教

育を受けて、一見立派な紳士淑女女になつて居ても

時々其品格に、さもしい所の見える人がある、こ

れは、全く幼時の道徳的教育の仕損じられた人で

後々の教育に由つて、僅に其品格の外面を保つて居る人でありまして、何かの誘惑に出遇ふと、忽ち夫に左右せられるのであつて、所謂品性の確立を缺いて居る人でありませう。

古來の俚諺は、屹度幾分つゝの眞理を含んで居るものですが、この點につきては、十分信用すべき根據を有する俚諺が多いのです。『三つ子の魂八十まで』とは、所謂三つ子も既に誦する所ですが、私は、更に、次回に於て、吾々保育の任にある者の常日専ら服膺すべき西洋の格言の著るしいものを集めて記載しませう。

兎に角、人間の道徳 Moral といふ字の起元は習慣といふ意味である通り、道徳は、習慣となるに至つて始めて尊い價值がある。この習慣は生後七年までに大低は出來て仕舞ふとは、フロエベル

先生の言葉であつて、これは何人も一致する所であつて、見れば幼年の時のこの教育は極めて大切である事が知れませう。

かく記して來ますと、固より何れに輕重はないのであります。此時分の教育で道徳の方面の方が反つて身體よりかも大切ではありますまいか、何故かといふに、足を一本不具にしても、尙其人は世に處して行けます。然し、若し、嘘つきとなつて生長すれば、其人はもう社會から排斥されねばなりませぬ。

婦人と親族法 (二)

太田 英 隆

第二章 戸主及家族

前第壹章に於きましては、親族とはどんなもの